

## ●午後のお



遠藤妙夫  
ブイツーソリューション  
発行所  
発売元 星雲社 1,143円(税別)

仙台在住の尼僧が小説を書いた。

鮎川の小さな喫茶店主美加を主人公に、過去ある近所の尼僧雲流、同級生伊藤雄太、そして中学教師・僧侶にして歌人の東山、その彼に師弟愛を越えた感情を抱く教え子夏子と亜紀、東京でスナックを経営している伯母良子など登場人物

も幅広い。

四国八十八カ所めぐりで出会う不思議な現象、与謝野鉄寛・晶子を髣髴とさせる歌会でのできごと、東京浅草でのスナック経営、東日本大震災で受けた店の被害とたった一人で奮闘した復旧など、思わず鼓動の高まる出来事が次々に展開される。

著者自身が体験したという幽体離脱も挿入されているが体験者ならではの詳細な表現は興味深い。

舞台は四国、高野山、東京、仙台のほかソウルにまで及ぶが、縁と愛で繋がった美加と東山が最後にたどり着くのは夕闇迫り大宇宙と同化したような安らぎを与える豊穡な海の鮎川であった。

私小説、恋愛小説、真言の世界を描く仏教小説などいろいろな読み方はできるが全編に流れているのは「縁と必然」、そして未来永劫に続く「霊・いのち」である。

著者は震災後一気に書き進んだという。震災にかかわるさまざまなドキュメントが世に出ているがこれもまた震災が生んだ小説といえよう。